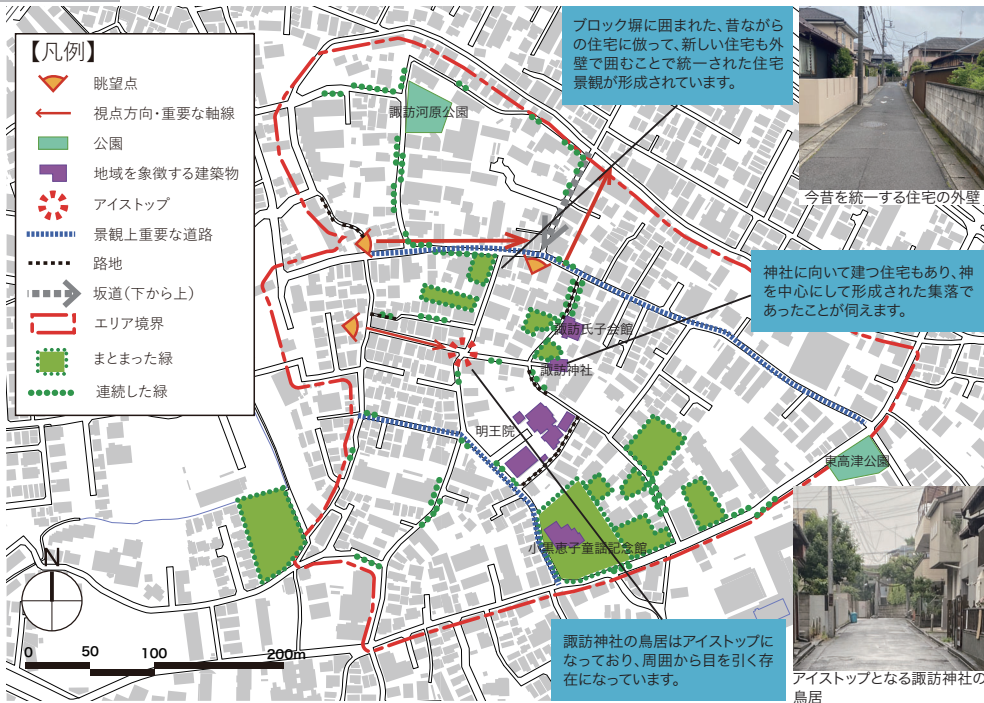


3-8 諏訪旧集落住宅街エリア

第一種中高層住居専用地域と第一種住居地域の二つの用途地域で構成されている住宅街エリアです。エリア内の特徴として東西を結ぶ2本の道の間に神社・寺院・古墳などの歴史的資源が多くつくられ、これらを中心に広がった旧集落の面影が現代も残されています。坂道や高低差はほとんどなく、平坦な土地になっています。幅員が異なる道路が複数存在し、時代の切り替わりが伺えます。

景観特性



1. 東西の軸線となる道路



諏訪神社・明王院の北側に位置する道路で、1896年～1909年には既にあった道です。今回のエリアは全体的に後から次々に既存の道に、継ぎ足す形で道が形成されています。しかし、画像のように一直線且つこのエリアの東西を、幅員を変化せずに結んでおり、東西の軸線と言えます。

2. 住宅街の細く曲がりくねった路地



幅員2mほどの狭い路地は、建物を数件進むごとに曲がりくねっています。視線を前方に向けると建物にぶつかります。建物は2階建ての低層住宅がほとんどですが、建物の壁面がすぐに街路に面している点や幅員が狭い点が、閉鎖的な路地空間を形成しています。

3. 道路に面して連続した敷地内の緑



植栽や樹木が敷地内に植えられている民地(住宅)が多くみられます。特に住居の内側だけでなく、道に面している側に緑が多く用いられており、複数点在していることから、エリア内で緑の連続性が景観の特徴になっています。

景観形成の目標

旧道と路地空間を活かした住宅地の形成

本エリアは、旧道と路地が形成する住宅街の閉鎖的路地空間や、古くからある畑や住宅の塀から溢れ出る緑が特徴的である。第一にこれらの保全をし閑静な住宅街の形成を目的とする。また、エリア内で東西を結ぶ2本の旧道の間にある、歴史資源を強調することで、魅力的な景観を形成することを目的とする。

景観形成の方針

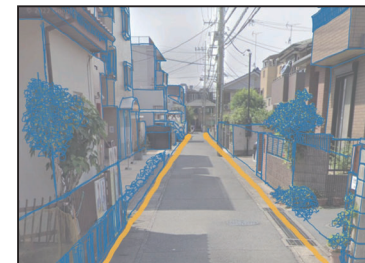
1. 見通しの良い、東西の軸線となる直線を見出す

景観形成の考え方

東西の軸線は途切れない1本の歴史的旧道を活かして連続性のある空間を際立たせる。

具体的な方策

- 同じ時代に整備されたことが視認できるよう、バラバラな舗装を全統一する。
- 直線を際立たせるために、街路ぎりぎりに塀を設置する。



直線が目立つよう道路ぎりぎりに沿って塀を造る

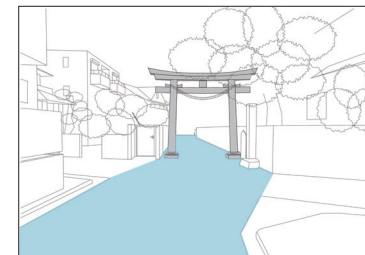
2. 空間ごとにまとまりをもたせ、エリアとして連続性のある街並みを形成する

景観形成の考え方

本エリアは道幅の狭い道路が点在していることに加え、公園や神社、寺などの地域資源があるため、それらを活用した連続性を生み出す。

具体的な方策

- 街路が数軒ごとに曲がっていることで複数の空間に分裂されているように感じさせるため、街灯を設置し、1本の街路であるという統一感を与える。
- 狭い道路のため、塀の高さをそろえることで街路に統一感をだす。
- 曲がりくねった道の先の行き止まりがでてくるため、アイストップをつくる。
- 高い塀や緑で囲われている歴史的な地域資源は高い塀やみどりでも囲われているため、周りの道路の舗装を変えることで住宅街とメリハリをつける。



統一された舗装、新たにアイストップとなる諏訪神社の鳥居

3. 住宅や畑の敷地内から道路へあふれ出す緑を保全する

景観形成の考え方

このエリアには街路樹がほとんど存在しないが、敷地内からの緑の溢れだしにより緑を多く感じさせる。

具体的な方策

- 新たに住宅などの建物を建てる場合、道路に面している側に積極的に緑を植えることとする。
- ブロック塀は人の目線の高さになるようにそろえることで、敷地内の緑を道路側からより見えやすくする。



高さを統一した塀と街路にあふれ出した緑